

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2772300972
法人名	桂商事株式会社
事業所名	グループホームさくら北畠
所在地	〒545-0022 大阪市阿倍野区播磨町1丁目19-9 (電話) 06-6623-7200

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年10月15日	評価確定日	平成21年11月16日

【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 23 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 23 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4)利用者の概要(9 月 1 日現在)

利用者人数	25 名	男性	3 名	女性	22 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	10 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人錦秀会の全病院、行徳歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

物品販売や製造卸を手掛ける法人が社会貢献の思いのもと開設された当該ホームは、阿倍野区の商店や住宅が立ち並ぶ場所に位置しています。明るいリビングはアイランドキッチンを配し、広い廊下にはベンチが数多く置かれ過ごしやすしい共有空間があり、各居室は全室和室でトイレと洗面台が設置されプライベートな空間も充実しています。職員は全員が常勤として勤務しており、利用者に配慮してユニット間や法人内の異動も最小限に抑えられ、職員間の連携も取れています。利用者とのコミュニケーションを大切に、常に会話することを心がけています。また日常的に外出の機会を確保し、散歩や買い物、夕食等一緒に出かけるなど、利用者の希望に沿った支援がなされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームが課題としていた2カ月に一度の運営推進会議の開催を始めるなど、改善に取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は各ユニットのフロア会議や申し送り時に管理者が内容の説明し、職員一人ひとりに意見を聞き集約して作成されており、課題は改善シートに記載されるなど、全員での取り組みが見られます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は概ね2ヶ月毎に、利用者、家族、地域包括センター職員、阪南地域ネットワーク委員会推進委員、法人職員、管理者等が参加し開催されている。会議ではホームの現状や取り組みについて報告がなされる他、家族からの意見や地域からの情報を得る良い機会となっています。自治会等にも働きかけ、参加を呼びかけています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に2回、行事を兼ねて家族会を開催し、家族から意見を直接聞く機会を設け、家族の素朴な疑問を聞き話し合ったり、終末期に対するホームの立場等について説明したりと、有意義な会となっています。また、玄関に意見箱を設置したり、外部の苦情機関を書面に掲載し、意見の収集に努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し回覧板等から情報を得て、地域のふれあい喫茶等の行事に参加しています。近隣の3~4か所の保育園や幼稚園と交流があり、園の行事としてホームへの来訪が組み込まれています。また、今年は雨で中止でしたが毎年ホームの夏祭りを屋上で開催し、地域の方にも参加頂いています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に考えられた理念を大切に守り、理念をもとにホーム独自の基本方針を打ち出し、その中で地域に親しまれる開放された施設づくりを目指すことを盛り込み、日々取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念と基本方針は各ユニットの玄関や会議室など、家族や外部者からも良く見える位置に掲示され、職員もいつでも確認することが出来ている。また職員会議や勉強会の際に理念について振り返り、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板等から情報を得て、地域のふれあい喫茶等の行事に参加している。近隣の3~4か所の保育園や幼稚園と交流があり、園の行事としてホームへの来訪が組み込まれている。また、今年は雨で中止であったが毎年ホームの夏祭りを屋上で開催し、地域の方にも参加頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の結果、ホームが課題としていた2カ月に一度の運営推進会議の開催を始めるなど、改善に取り組まれている。また、今回の自己評価票は各ユニットのフロア会議や申し送り時に管理者が内容の説明をし、職員一人ひとりに意見を聞き集約して作成されており、課題は改善シートに記載されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね、2ヶ月毎に利用者、家族、地域包括センター職員、阪南地域ネットワーク委員会推進委員、法人職員、管理者等が参加して開催されている。会議ではホームの現状や取り組みについて報告がなされる他、家族からの意見や地域からの情報を得る良い機会となっている。自治会等にも働きかけ、参加を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者の変更も多く、運営についての相談を行う関係には至っていないが、申請等の手続き時に挨拶を交わし、担当者に運営推進会議の議事録等の提出についての働きかけは行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、個々の利用者に職員が手紙を書き、暮らしぶりや健康状態を報告している。その際、利用者の写真入りのホームの便りである「さくら通信」を同封している。また職員の写真入りの名簿を家族にわかるようにユニット入り口に掲示している。金銭管理は預かり金として事務職員が管理し、毎月家族に収支報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、行事を兼ねて家族会を開催し、家族から意見を直接聞く機会を設け、家族の素朴な疑問を聞き、話し合ったり、終末期に対するホームの立場等について説明したりと、有意義な会となっている。また、玄関に意見箱を設置したり、外部の苦情機関を書面に掲載し、意見の収集に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を全員常勤雇用とし、定期的に施設長も交えた懇親会を開催したり、リーダーや管理者、事務長が職員と話をする機会を持ち、悩みや相談に乗っている。異動も利用者の不安の無いように配慮している。新しい職員には利用者や職員とコミュニケーションをとり馴染みの関係を築いてから、仕事を覚えてもらうようにシフト調整している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修や実践者研修等、必要に応じて外部研修に参加し、ホームの勉強会の際に他の職員に伝達研修を行ったり、資料は閲覧している。また、ホーム内でも毎月事例検討等の内容の勉強会を開催し、職員のスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホームネットワークに参加し、定期的開催される勉強会に管理者が参加しており、今後は職員対象の勉強会も検討されている。また、法人内のホームと合同で会議や勉強会を行い、職員間で意見交換する機会を確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを見学して頂き、他の利用者や職員と過ごしてもらったり、体験入居からそのまま入居してもらった等、馴染みの関係作りを重視している。また、職員が自宅に向き、生活環境を見て、入居後の日課や生活に役立っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事やこれまでの経験などを利用者から聞き学ぶことが多くある。職員は利用者とのコミュニケーションを大切に、一緒に過ごす中で、叱られたり励まされたりしながら、信頼関係を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションや家族からも以前の生活歴や習慣等を聞いて希望や意向の把握に努めている。聞き取った内容は独自のアセスメントシートを利用し、情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望をもとに、サービス担当者会議を開き、ケアプランを作成している。出席できない職員の意見は事前に聞き取り、必要に応じて医師や看護師の意見を聞くなど、関係者と連携しながら、ケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎にモニタリング、評価し見直されている。変更が無ければ、6ヶ月毎に更新されている。状態に変化が見られる場合は、その都度見直されている。ケアプランはコピーしてカーデックスに入れ現場に置き、職員が常に見ながらケアにあたるなど、ケアプランに沿った実践を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の通院介助や理美容の同行、利用者の希望による神社や教会の日曜礼拝等に同行している。ファミリーレストランへおやつを食べに出かけたり、寿司屋に来てもらい、目の前で寿司を握ってもらう等、利用者の希望に沿った柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に希望を聞き、かかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医から往診を受けている利用者もいる。家族の協力を得ながら通院し、訪問看護も個々の契約となっている。夜間や緊急時は協力病院との連携体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた大まかな対応については、契約時に家族に説明し、家族会の中でも議題に挙げ話し合われている。ホームでは常時医療が必要になった場合は、退居をお願いする方針であるが、時期が来れば家族や医師、看護師、職員で話し合い、出来る限りの対応を行うつもりである。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にも謳っている部分であり、利用者の尊厳を守る上でも利用者は人生の先輩であることを忘れず、敬語で話すよう心がけている。職員の不適切な言葉遣いを見かけたときには、管理者やリーダーがその場で注意をしている。個人のファイル等は各ユニット事務所の鍵付きの書庫に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースに合わせながらも生活リズムを確立できるように、何度も声かけをして役割や楽しみの支援をしている。無理強いや押し付けにならないように常に配慮しながら声かけを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は担当職員が利用者の希望を聞きながら、1週間毎に立て、おやつや足りない食材は職員と一緒に買い物に出かけている。利用者の出来る範囲で、下ごしらえやテーブル拭き、お茶出し、片付け等を一緒に行い、食事は同じテーブルで会話を楽しみながら頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3日、曜日を固定して入浴されており、都合で入浴できなかった場合は次の日に入浴されている。希望があれば毎日入浴できるようにするなど柔軟に対応している。浴室には浴槽が2つ用意され、利用者の希望で二人一緒に入り楽しまれている利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前の生活歴を活かし、調理や洗濯物の整理などを役割りを担ってもらっている利用者もいる。習字や塗り絵、貼り絵等の作品作りをされたり、皆で一緒におやつを作ったり、歌を歌うことが利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	新型インフルエンザの影響もあり、以前よりもやや外出の機会が減少しつつあるが、出来る限り短い時間でも外出が出来るよう支援している。散歩や買い物、ファミリーレストランへおやつを食べに行ったり、家族との外出を支援している。また行けない日は屋上で日光浴したり、お茶を楽しんだりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターはテンキーで管理され、ユニット入り口が施錠されているユニットもある。職員は鍵をかけることの弊害を理解し、利用者に出かけたい様子があれば、できるだけ外に出かけることができるよう支援している。また、利用者の状態によっては鍵をかけない時間帯もある。鍵をかけることについては家族にも説明している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行い、1回は消防署立ち会いのもと屋間を想定して行われている。またホーム独自でも避難訓練を実施し、夜間を想定しての避難訓練を近々実施する予定である。地域に対する周知は働きかけを含めてなされていないのが現状である。	○	運営推進会議等で議題に取り上げ、避難訓練の際の協力と参加を呼び掛けたり、地域の防災訓練に参加する等の取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量や水分量は記録に残している。利用者の体調や状態に応じて利用者毎に食事の量も変えたり、お粥やトロミをつけて提供している。また献立は栄養バランスに気を配り、同じ材料や調理法が重ならないように配慮して作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは同じ造りで、リビングは明るくゆとりがあり、アイランドキッチンで、利用者も作業がしやすくなっている。また、玄関や廊下、居室前に木のベンチやソファを配し、床の間のある和室を設け、自由に寛いだり、一人になれる場所を確保している。金魚やメダカを飼い、廊下には絵画や自作の作品や写真を貼り、家族にも好評である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレと洗面台、クローゼットが配置され、障子のある和室に、ベッド、タンス、テレビ、机・椅子、家族の写真等を自宅から持参されている。中にはカーペットを敷いたり、布団を敷いて休んでいる利用者もいる。自室がわかるように居室前に写真入りの作品を飾ったり、暖簾をかけている利用者もいる。		